

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770302038		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホーム ここから高宮 (森)		
所在地	〒572-0806 大阪府 寝屋川市 高宮1丁目15-22		
自己評価作成日	平成23年5月1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成23年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

古い歴史の町の中で 5年が過ぎました。季節を感じられる田植え、稲刈り、焼畑の風景は変わらず、日々の過ぎていることを知らせてくれます。又、この地に伝わる伝統行事にも機会をたびに参加させていただき、皆様にも気軽に声をかけていただいています。生活の援助の部分で時間をかけなければならなくなっていますが、その中でも楽しい時間、笑顔があふれる時間を職員と一緒に過ごしていただきたいと思っています。入居者のかたの趣味なども楽しんでいただけるよう、菜園、将棋、音楽、行事のときなどのボランティアの方にも、沢山入っていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年12月に単独型木造平屋建てに、2ユニット開設された。ホームの周辺は田園が広がり、田植えの時期で田んぼには水がはられ、田植えの準備の真最中である。ホームの門を入れれば広い庭に、テーブルと椅子が設置されて憩いの場所となっている。四季折々の植栽や草花が植えられ、訪れる訪問者の目を楽しませてくれる。地域のボランティアによって家庭菜園が栽培されて、収穫された野菜や果物は時々食卓へ上る時もある。職員はチームワークもよく、館長との人間関係もよく、意見や要望が素直に提言できる雰囲気がある。利用者も穏やかに過ごし、地域住民との交流、自治会行事への参加など積極的な交流がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念があり、ホーム独自の理念を職員共通の思いとして掲げ、それに沿って入居者様の介護にあたっている。	事業所独自の理念を創り、朝の申し送り時に職員全員で唱和をしている。日々のサービスの提供場面(声かけ、態度、記録など)を振り返り、理念がケアに反映するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事にはポスターの掲示、声かけを行なっている。朝夕の挨拶時にもご近所の挨拶、夏季、冬季の学校などの休日も園内に入れるように、声かけをしている。自治会行事などもお誘いいただき、努めて参加している。	自治会に加入していないが自治会長から地域への行事(どんと祭り、盆踊り、秋祭り、だんじりなど)の誘いもあり参加している。日常的に散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしている。蓮華畑の百姓さんに遊んでいくように勧められ、花を摘んで楽しむ機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事、食事会など近隣の方や高齢者の方にも宣伝し、参加していただける企画に取り組んでいます。また、見学に見えた方に、介護相談や認知症の介護の支援方法をアドバイスさせて頂くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、推進会議を行なっている。その場で報告又定期的に発行しているお便りにも報告及びその後の取り組みをお話しています。ご意見ご要望もお聞きしています。会議には毎回、地域の自治会の代表者やご家族様を交えて行っており、活動の様子や意見をもらえる場としてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。入居の状況、活動状況、地域との交流状況、事故、ヒヤリハットなど事業所から報告をしている。参加メンバーからの質問、意見、要望をうけ、双方向的な会議をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	寝屋川市ネットワーク会議なども参加し情報を得たり、市主催の勉強会、行事にも積極的に参加しています。	日頃から、市が開催する各種の会議へ出席し、市の担当者との情報交換をしている。市主催の勉強会、行事などへも積極的に参加して、市と共にサービスの質に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの侵入を防ぐと言うことで門扉は施錠していますが、玄関、各ユニットの扉は日中は開放しています。定期的なグループでの勉強会を持ち介護者とも介護会議を行っています。	門扉は施錠している。日中、玄関の鍵は開錠し、利用者が庭へ自由に出入りができるように見守りを重視して、出来る限り開放感が得られるように心がけている。定期的に症例カンファレンスを開催し、検討会を行っている。研修への参加もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なグループでの研修を持ち介護者とも介護会議を行っています。虐待防止の方針を徹底するために、ミーティングや社内研修時に学習する機会をもっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的なグループでの勉強会を持ち介護者とも介護会議を行っています。権利擁護については、ミーティングや社内研修時に学習する機会をもっている。必要性も随時検討するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を照らし合わせながら説明を行ない、改定時にも説明は行なっている。必要時には、例も挙げて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などに出席していただき、意見を頂くようにしている	年1回家族会を開催し、家族の交流の場となるよう心がけている。家族会では運営推進会議での報告や行事案内の参加を呼びかけている。日頃から信頼関係を築いて、意見や要望などが言える雰囲気作りを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で様々な題目で意見交換を開催し提案事項を抽出反映させている。	定期的に行われる全体会議や職員会議で、職員に意見、要望、提案など聞く機会を設けている。館長と職員間の人間関係は良好で、自由に意見が言える雰囲気があり、業務改善、運営へと繋げている。法人主催の研修への参加もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人諸規定(給与規程、服務規程等)に基づく。職員会議で規程の変更点・留意点等を周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自の委員会による研修会の開催、事業所単位で取り組んでいる全体会議を活用した勉強会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加を行ない、見学会や勉強会への参加、交流を行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接を行ない、ご本人の意向を傾聴する場を持っている。家族様も、いつでも相談していただけるよう、連絡先もお伝えし対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭に訪問する日程を調整して調査へ行き、ご本人からお話を伺い、ご家族の意向を傾聴する場を持っている。また、事前にできるだけホーム内を見学していただき、体験していただくように勧めている。いつでも相談していただける様、連絡先もお伝えし対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に加え、主観的、客観的立場に基づいた判断のもと、担当ケアマネージャーとの話し合いで最も必要であるサービスを検討につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手芸や掃除、畑仕事など職員と一緒にを行い、ご利用者の経験や知識、知恵を、活動から学びあっている。又、ご利用者同士の助け合いも築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にサポートさせていただけるよう、随時相談・報告につとめ、ご本人の情報なども教えていただくようにしている。また、一緒に外出等ができる機会も大切にしている。日々の変化や、受診結果など必要時に連絡を取り、面会や外泊、外出を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で開催される行事(いきいきサロン、お祭り等)には出来る限り参加しているので知り合いの人が声を掛けてくれたり、行き付けの美容院にも行っている。また、遠方の方には電話で会話を楽しんでいる。	アセスメントシートによる、利用者の生活歴や家族からの聞き取りなどで情報を得て、利用者本位の個別対応により、従来の生活の継続性の確保をしている。馴染みのスーパーや、和菓子の店や、美容院への外出などの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係ができるようにスタッフが架け橋となりきっかけ作りをお手伝いしている。食事・アクティビティでは座席にも留意し、顔馴染みの関係が続くよう努めている。仲の良い方、そうでない方とそれぞれであるが、職員の誘導以外でも会話や作業を楽しんでおられる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の施設の訪問などを行ない、関わりを持っていけるように取り組んでいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活からご利用者の思いを汲み取り、買い物に出かけたり、美容院へ行くなどの支援を行なっている。	利用者の生活歴や基本情報をアセスメントし、ニーズに合わせて、繰り返し確認しながら、自立した日常生活が継続できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別記録に生活環境や趣味、趣向等が記載されており、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当日の職員を中心に観察し、必要時には看護師、家族との連携を行なっている。又、毎日の記録にて申し送りを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、ケアマネージャーから得た情報をもとに会議をもち、介護計画を作成している。	職員に担当者を割り振り、計画を評価して、ケアマネージャーとカンファレンスを行い、主治医、家族からの要望、意向を聞き計画に反映している。利用者の病状の変化時には臨機応変に計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当日の心身状況を記録し、職員個々が把握に努め、介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの受け入れや慰問の見物、地域の行事への参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへ買い物に行く機会を設けたり、理美容に出かける機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族へ協力医療機関の説明を行ない、希望の受診先を決定している。	利用者、家族の希望する、かかりつけ医へ継続して受診できるよう支援している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時は職員が代行するよにしている。検査結果や病状報告も家族へ報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、ご利用者の健康管理を行なっている。看護師・嘱託医の看護師にご入居者の様子をお伝えし、相談させていただく事がある。通院の際には 状況を伝えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、地域連携室との情報交換や相談に努めている。お見舞いに伺い経過を確認しながら、できるだけ早く退院できるように先生と相談検討している。また、退院後も病院と連携がとれるように情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の様子や変化から重度化についてご家族との話し合いの場を設け、「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、文面での指針も共有し、同意を得ている。またターミナルケアに向けても早い時期からご家族との話し合いの場を持ち、かかりつけ医との確認も行うようにしている。	入所の際に家族や利用者に対して、重度化や終末期に関する事業所の方針を説明して同意を得ている。家族、職員、看護師、協力医療機関などと、連携を図りながらチームで支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会の開催がされているほか、急変時の対応は会議で学ぶ機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練(消防署の協力)を実施し、自治会主体の防災訓練にも参加している。非常食の備蓄もありスプリンクラーも本年2月に設置している。	災害時の対策マニュアルを作成している。年2回消防署の協力で、利用者と共に消防訓練を実施している。消火器の使い方などの訓練を行っている。地域の協力体制については、自治会でもお願いしたり運営推進会議で協力を呼びかけているが、地域住民への協力体制の構築がされていない。	夜間を想定した地震や火災などの災害対策については、消防署や運営推進会議を通じて、具体的な訓練や対策の導入を図ると共に、地域住民との協力体制の構築の取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行ない、職員全員で見直し、実践に取り組んでいる。特に排泄と入浴に気を配り言葉使いにも配慮し、職員同士でも外部には口外しない様に徹底している。	法人、市主催の研修や会議に参加し、日頃利用者の援助、対応の仕方や、接遇について確認しあっている。職員はお互いに注意しあえる関係を築いている。利用者に対する声かけも丁寧である。個人情報の扱いも管理が徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者本意の会話に心がけ、悩みを聴き“どのようにしたいのか”自己決定への支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは特に決まっていない。できるだけご入居者の希望に添えるように対応している。メリハリのある生活を大切に、日々の希望や状態に合わせた個別対応を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にその日の洋服や必要なものを尋ねて、お渡しし、できる限りご本人に行なって頂く様にしている。また、ご自分で選べない方にも以前の趣味・趣向を考慮して提案させていただく。さりげないおしゃれをいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、後片付けなど個々のレベルに合わせて、出来る事への引き出しに努めている。	給食会議を定期的開催している、食材は業者から仕入れている、献立は業者の管理栄養士により作成される。利用者の生活レベルに応じて食事の準備や片付けに参加してもらっている。利用者と職員が一緒に食事を頂き、家庭的な団欒がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴後や夜間、希望時は水分補給を行ない、一定量の確保に努めている。また、その日の体調の変化に応じてメニューも変更している。お茶ゼリーや好みの飲み物をご用意して水分を摂っていただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一部介助や見守りにて、口腔ケアの支援を行なっている。その方の状態にあった歯ブラシやケア用品を用意している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や合図、パターンの把握を行ない、気づき大切に、職員同士が情報を伝達している。が排泄チェック表、気づきを心がけトイレに誘導している。	利用者個々の排泄チェック表をもとに、トイレ誘導の支援をしている。自立した排泄が継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の摂取を促したり、歩行訓練や腹部マッサージをして整えている。水分補給に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回以上の入浴に心掛け、心身の状況や希望に合わせている。	入浴は個々の希望や要望を取り入れ、好きな時間に納得が行くまで、自由に入浴ができるよう臨機応変に対応している。体調不良や入浴拒否の場合には、日時を変更したり、足浴、清拭、シャワー浴などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間は決まっておらず、それぞれの習慣・リズムでお好きな時間に休んでいただいている。午後はゆっくり、自由に過ごしていただいている。昼食後、自室にてお昼寝されたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認を行ない、説明書きには留意している。内容確認や変更時は看護師にて行っており、観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌活動や散歩、ドライブ、手芸、畑仕事などを行ない、生活力を発揮できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や必要物品の購入、朝食用のパンの購入や、理容店など希望や状況に応じて外出支援している。嗜好品等をスーパーマーケットに買いに行ったり、美容院に出かけたりしている。又、家族の訪問の時には一緒に食事、買物に出かけている。	近隣の散歩、公園、スーパーへの買い物など、利用者の体調と相談の上、希望があれば何時でも戸外に出られるよう支援をしている。外出が困難な利用者の場合はホームの庭や菜園などでの、外気浴や日光浴を楽しんでもらう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できる方は所持していただき、近隣のスーパーなどでお買い物をしていただいている。所持しておられない方も、外出の際にご希望の物が購入できるように支援している。。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望により電話をかけて頂いたり、頂き物をした時などは、お礼の電話をかけて会話していただく様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、好みのものを持ち込み日々の生活を楽しんでいる。居間、食堂等から一年中緑の木々が眺められ、スペースが広くゆったりした落ち着き感がある。団欒が出来るよう廊下にはソファが用意され、壁には月々の季節に応じた作品が掲示してある。	共有空間は明るく、清潔感があり、訪問者を落ち着かせる雰囲気がある。ホーム全体はバリアフリーで、ユニット間の行き来も自由に行ける。リビング、ダイニングはゆったりして、ソファやテレビが配置されて、寛げる雰囲気がある。各ユニットにはウッドデッキが備え付けてあり、四季折々の植栽や草花が楽しめる設計がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングホールは談笑できる場として活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	合図となる目印の設置や動作説明にて出来る事も多く、頼り過ぎることの無い様に、つかず離れずの関係を大切にしている。	居室の表札は目線の位置にあり、花、森に配置されたユニットには花の名前や、木の名前が記されている。居室には使い慣れた家具や椅子、写真や思い出の品々が持ち込まれ、個々の利用者の居心地のよさを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	合図となる目印の設置や動作説明にて出来る事も多く、頼り過ぎることの無い様に、つかず離れずの関係を大切にしている。		